

女性記者、懸念の声独める

特定秘密保護法めぐり

違和感、不気味、お化け？

〔共同〕何が「秘密」か明確にされない特定秘密保護法案は、国民的議論を巻き起こしてきた。言論や表現の自由を制限しかねず、日常生活を息苦しくするとの心配が強まる中、女性記者たちは危ぶむ声を上げている。

▽無意識に萎縮

漫画家の倉田真由美さんは、「自分が特定秘密に当たるのか全く見当がつかない」ので、まるで正体が見えないモヤモヤとしたお化けを相手にしているようだ。これほど具体的なイメージが湧かない法律も珍しく、市民はただぶるぶる震えるしかない。

NHK経営委員を務めたことがあります。それが、誰が



倉田真由美さん

した後、立件が妥当かどうかはどうやって判断するのでしょうか。

うかがう

る

うかがう

る</p

